

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT教育機器を効果的に使用したり、スクールサポート等を通して支援員を十分に配置して個に応じた指導を展開したりしたことにより、手縫いやミシン縫いにおける技能の習得速度や習熟度の差に応じた指導をすることができた。また、調理実習においても、児童一人一人に対して安全に十分配慮した指導を実施することができた。
- ・調理実習の計画を立てる際にプログラミング的思考を取り入れることにより、準備や片付けまでの見通しをもち、安全かつ円滑に作業を進めることができる児童が増えた。
- ・自らの生活の中から学習課題を見付けること、身に付けた知識及び技能を生かして解決方法を考えること、解決方法を考える際に「生活の営みに関わる見方・考え方」を働かせて考えることで、学んだことを自らの家庭生活に生かそうとする児童が増えた。旬の食材や五大栄養素を意識して給食を食べる、買い物に行く際はエコバッグを持参する、お道具箱やロッカーの整理・整とんを心がける、ごみの捨て方に注意したりするなどの姿が、以前より多く見られるようになった。

(2) 課題

- ・学習課題を解決する中で、「主体的に学習に取り組む態度」における「自らの学びを調整する力」をどのように評価するかを明確にする。
- ・「個別最適な学び」を実現する中で、身に付けさせたい知識・及び技能を習得させるためにどのような手立てが効果的であるか、題材ごとに具体例を示して教員間で共有する。

2 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活の中で触れる機会の多い知識や技能については、理解の深まりが見られる。その一方、調理や裁縫、洗濯、掃除等、生活全般に関する経験が少なく、実感を伴って理解することが難しい。	・題材に関する事前アンケートや家庭でのインタビュー活動などを実施した上で、生活の中から問題を見だし、課題を設定することができている。 ・家庭科の学習に関わる用語を適切に用いて自らの考えを表現することは難しい。	・段階見本を参照しながら手順を確認したり、縫いしろを考えてゆとりを設定したりするなど、自分の作りたいものに合わせて粘り強く取り組む姿が多く見られる。 ・自らの生活から問題を見だし学習課題を設定したことで、題材の学習後も「学習したことを生かして家庭で取り組みたい」と意欲を見せる児童が多く見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日頃の家庭生活で身に付いている既存の知識について	・他教科でも取り組んでいる表現活動の方式を活用し、	・学習した内容を実生活に反映させ、そこからさらに問

も、それらが活用される具体的な生活場面を明らかにしながら考えさせる必要がある。	教科横断的に表現活動に取り組ませる。 ・ I C T機器を活用し、一連の題材に関わる自らの思考の流れをポートフォリオ形式で記録する。	題を見いだし課題を設定していくことのできる学習および思考の流れを浸透させていく。 ・ I C T機器を活用して学習課題の解決に向けた児童一人一人の学習過程を残すことで、自己調整力を適切に評価できるようにする。
--	---	---